

教 16 医療人として必要なセルフコンパッションを育む教育

○山藤 賢(さんとう まさる)

昭和医療技術専門学校

本校では「全員卒業・全員合格」というスローガンをかけ、本校教育理念の一端を担う大事な要素と考えている。これは国家試験の合格率を高めるという指針ではなく、また現在多くの教育機関で見られる画一的な教育指針とも異なり、入学した全ての学生が進級し、卒業し、国家試験を受験して全員が合格することを目指すために、個々の資質にも合わせながら、誰一人として取り残さない丁寧な教育を展開するという意志を表している。そして、その柱となるのは、医療人としての「人間性教育」である。資格取得が目的ではなく、入学時より、医療人としてどうあるべきなのか、なんのためにこの学校に通い、資格取得を目指しているのか、そのような問いを自分自身に向けることにより、自己肯定感を持ちながら患者と医療に寄り添える医療人を目指すことができると考えている。そのためには他者と繋がる前に自分自身と繋がるという作業が大事であり、本校では学校長である演者自らが、入学初日から講義に入り、まずは1年かけて、その根幹となる講義(ワーク)を続けている。その一部に、このセルフコンパッションを

高めるようなワークも導入している。「臨床哲学人間学」講座から始まり、「生命の倫理」、そして2年次以降も「医療人特論」など幅広い講座を展開していく中で、臨床検査技師という枠だけではなく、社会に広く通用するような人間性を培う機会を重要視している。このような要素はこれからの全ての医療従事者により必要となってくる大事な資質と考えるが、今回は発表時間に限りはあるためそのほんの一部にはなるが、実践としての講義内容、ワークなどを紹介するつもりである。詳細に関しては、講演後も含めて現地で演者に直接うかがってもらえたらと思う。